

令和5年度（第23回）善通寺市子ども・子育て支援会議 議事録

1 日 時 令和6年3月21日（木）15時45分～17時00分

2 場 所 ZEN キューブ3階 講習室3

3 出席者 委員8名
欠席7名

4 会議の概要

1. 保健福祉部部長挨拶

2. 議事

（1）子ども・子育て支援事業計画の進捗管理・評価について

（2）その他

5 資料

・教育の事業量の見込み、提供体制の確保内容、実施時期等

6 会議録

1. 議事

（1）子ども・子育て支援事業計画の進捗管理・評価について

〔事務局〕資料「教育の事業量の見込み、提供体制の確保内容、実施時期等」に沿って説明。

〔会 長〕子ども・子育て支援事業計画の進捗管理・評価について、それぞれの委員の立場での意見をいただきたい。

〔副会長〕妊婦検診事業について、利用者数は減少傾向にあるが、対象となる0歳児人口自体が減少傾向にあることの表れである。

〔会 長〕資料にある数字以外のことについても何かあれば意見いただきたい。

〔委 員〕地域子育て支援事業や利用者支援事業の利用者の抱える問題について、個別に専門職の対応が必要な案件が増えている。また、保護者のメンタルケアや子どもの発達に関する相談といったケースが増えている。

〔会 長〕利用者の抱える問題の内容に深刻なものがある。現場の職員では対応が困難なものがあり、また増加傾向にもある。対応する職員の負担増も懸念される。

〔会 長〕 どこまでの問題が子育て支援に関わる範囲としてフォローを考えるものなのか。
現場でそのような案件が増加傾向にあるということは、家庭内で問題解決しきれない世帯が増えているということかもしれない。

また、子育て家庭が少なくなる分、問題を把握しやすくなる、より見えてくるということはあるだろう。

〔委 員〕 コロナ禍もあり、個別訪問の案件が増えているという現実はある。

〔会 長〕 問題を抱える世帯に対し、アウトリーチしていく施策や対応の必要性が高くなっており、今後検討をしていかなければならない。

〔委 員〕 スタディアフタースクールについて、対応する職員のシフト調整などが課題となっている。

〔委 員〕 行政だけの対応でなく、民間など、関わりを広げていくことも必要ではないかと感じる。

〔会 長〕 今の子育て世帯、つまり若い世代にとって行政に関わるということがハードルが高い。助けを求めることに抵抗感がある。善通寺の施策として、「市民が助けを求めやすくなるような取り組み」という視点をもって、行政サービスへのアクセスのしやすさを整備する必要がある。また、取り組み内容も今の時代に合っているものか、見直し、ブラッシュアップしていく必要がある。

〔委 員〕 子育て支援の従事者も知識を身に付け、ツールを活用して保護者に向けて情報を発信していかなければいけない。

〔副会長〕 兄弟の少ない家庭だと小さい子供をどう扱ってよいか分からない、その経験が無い親もいる。虐待などにつながる可能性もある。教育の一環として、基本的なことを早い段階で教える機会も必要ではないか。

〔委 員〕 保育時間の長い子供が増えてきている。保護者の就労時間が長いことによる場合が多いが、家庭での親子のかかわりの時間が減っているのではないかと懸念される。

〔会 長〕 子どもへの愛情不足から虐待につながるなどが考えられる。子育て支援の現場でこうした世帯が取りこぼされないようフォローしていかなければならない。

(3) その他

〔事務局〕第3期善通寺市子ども・子育て支援事業計画の策定にむけたアンケート調査の結果について、次回開催にて報告、意見交換を行う予定。開催は令和6年4月18日にて調整をし、正式な開催案内は別途お知らせする。

－ 閉会する －